

# 指示詞「こう」の分類について

近 悠 美\*

(e-mail: kon\_yuumi@yahoo.co.jp)

---

## 目 次

---

1. はじめに
  2. 先行研究
    2. 1. 金水・木村・田窪(1989)
    2. 2. 小出(2011)
  3. 指示詞「こう」の性質に関する仮説
  4. 調査対象と方法
  5. それぞれの指示詞「こう」の用法
    5. 1. 言語指示としての「こう」
    5. 2. 動作指示としての「こう」
    5. 3. 状況指示としての「こう」
  6. まとめ
- 

## 1. はじめに

本稿では、指示詞「こう」の分類について述べる。山内(2009)では、OPIデータにおける「こう」<sup>1)</sup>の出現回数が、初級1回、中級2回、上級1回であったのに対し、超級は173回であったことから、超級になるとファイラー<sup>2)</sup>「こう」の使用回数が急増するということが明らかにしている。<sup>3)</sup>このように、ファイラー「こう」は日本語学習者のレベルを知るための重

---

\* 檀国大学校 外国語大学 日本語科 専任講師

1) 山内(2009)では、指示詞とファイラーの区別はせずに調査を行なっている。

2) ファイラーとは、「あのー」や「えーと」など、「それ自身命題内容を持たず、かつ他の発話と狭義の応答関係・接続関係・修飾関係にない、発話の一部分を埋める音声現象(山根2002: p.49)」のことである。

3) 山内博之(2009)『プロフィエンスーから見た日本語教育文法』ひつじ書房. pp.12-13

要な手掛かりであり、また、ファイラー「こう」の機能を明らかにすることは、日本語教育において重要な課題となる。

一方、「こう」にはファイラーだけでなく指示詞もある。それぞれの用例は以下のとおりである。

(1) 男は電話の相手に向かって、わたしとは完全に無関係にこう言った。「そりゃまた、すごい偶然じゃないか」喫茶店を出るとき、<sup>4)</sup> (BCCWJ)<sup>5)</sup>

(2) 三十歳ぐらいでやっとこう大人の仲間入りだと思うんですいやもしかしたらもっと上かも (CSJ)<sup>6)</sup>

(1)の「こう」は「そりゃまた、すごい偶然じゃないか」という発話を指示し、動詞「言う」に係っている<sup>7)</sup>ことから、指示詞「こう」であると考えられる。一方、(2)の「こう」は指示対象も係り先も明確でないことから、ファイラー「こう」であると考えられる。「こう」にはファイラーだけでなく指示詞もあることから、両者をともに研究対象とする必要がある。

そこで、本稿では指示詞「こう」とファイラー「こう」の関係を明らかにするための準備段階として、指示詞「こう」のみを研究対象とし、以下の2点を主張する。

- ①指示詞「こう」が、「言語指示」「動作指示」「状況指示」の三つに分類できる。
- ②省略可能な指示詞「こう」が、指示詞「こう」とファイラー「こう」をつないでいる。

①の「言語指示」とは、従来からある「文脈指示」のことである。文脈指示は、会話や文章だけでなく、意志、感情、思考内容など、言語全般を指示していることから、本稿では言語指示とした。次に、「動作指示」とは、従来からある「現場指示」のことである。「こう」は「これ」「この」とは違い、物ではなく動作を指示していることから、本稿では動作指示とした。そして、「状況指示」とは、本稿で新たに立てた分類のことである。状況や状態を指示している「こう」を、本稿では状況指示とした。

また、②の「指示詞「こう」とファイラー「こう」をつないでいる」とは、指示詞「こう」には省略が可能なものと不可能なものがあり、省略可能な指示詞「こう」は、省略が可能である点がファイラーと共通していることから、省略可能な指示詞「こう」が、指示詞「こう」とファイラー「こう」をつないでいるのではないか、ということである。

4) 本稿の用例に記されている、「こう」の二重下線、指示詞「こう」の指示対象の一重下線、指示詞「こう」の係り先の囲み線は、すべて筆者によるものである。

5) BCCWJとは、国立国語研究所が作成した『KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」検索デモンストレーション』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)のことである。なお、現在は『KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」少納言』という名称になっている。

6) CSJとは、国立国語研究所と情報通信機構が開発した『日本語話し言葉コーパス』(Corpus of Spontaneous Japanese)のことである。

7) 本稿では、指示詞「こう」の係り先の範囲を特定しやすくするために、係り先の範囲は活用形までとした。

## 2. 先行研究

### 2. 1. 金水・木村・田窪(1989)

最初に、指示詞「こう」の分類に関する先行研究を概観する。指示詞「こう」の分類に関する論文は、管見の限りでは見当たらなかったが、学習者向けに書かれたものに、金水・木村・田窪(1989)がある。

金水・木村・田窪(1989)では、指示詞「こう」には以下の用法があるとしている。<sup>8)</sup>

- I. 動作や作用の様態を表す用法
- II. 動作や作用の結果の状態を表す用法
- III. 発言や思考の内容を表す用法
- IV. 性質・状態の程度が大きいことや、様態の程度・量が大きいことを表す用法

まず、Iの用法の用例として(3)を挙げている。

- (3) 「お箸の持ち方を教えてください」  
「右手の指にこう挟んで、こう動かすのです」

(金水・木村・田窪1989：p.56)

(3)は手を動かしながら箸の持ち方を説明しており、「こう」は箸を持っている動作を表していることから、Iの用法であるとしている。

また、金水・木村・田窪(1989)では、Iの用法の「こう」について、指示詞と動詞の間に他の言語が入るときは、「こう/そう/ああ」は使えないとしており、その用例として(4)を挙げている。

- (4) ラケットは、{\*こう/こんな風に/こうして/こうやって} フェイスと手のひらが平行になるような位置で握るとい。

(金水・木村・田窪1989：p.57)

金水・木村・田窪(1989)では、(4)のように「こう」と動詞の間に他の言語が入っている場合は、指示詞「こう」が使えないとしている。しかし、話し言葉の場合、手を動かしながら発話しているのであれば、「こう」と動詞の間に他の言語が入っていても、「こう」を使うことができるのではないだろうか。

次に、IIの用法の用例として(5)を挙げている。

---

8) 金水敏・木村英樹・田窪行則(1989)『日本語文法 セルフマスターシリーズ4 指示詞』くろしお出版。p.56、p.59、p.61、p.68

(5) 「このご飯少しかたいですね」

「ええ、炊くときに水が少ないとこうなるんです」 (金水・木村・田窪1989 : p.59)

(5)は目の前にあるご飯について話しており、「こう」はご飯の状態を表していることから、Ⅱの用法であるとしている。

次に、Ⅲの用法の用例として(6)を挙げている。

(6) 登美子は、こう言いながら入ってきた。

「おはようございます。きょうもよろしく願いいたします」

(金水・木村・田窪1989 : p.61)

(6)の「こう」は、「おはようございます。きょうもよろしく願いいたします」という登美子の発言内容を表していることから、Ⅲの用法であるとしている。

そして、Ⅳの用法の用例として(7)を挙げている。

(7) こう暑いと、勉強がはかどりませんね。

(金水・木村・田窪1989 : p.68)

(7)の「こう」は、暑いという状況の程度が大きいことを表していることから、Ⅳの用法であるとしている。

金水・木村・田窪(1989)は学習者向けに書かれたものであるため、分かりやすさを優先して、四つの用法に分類しているのだと思われる。しかし、Ⅱの用法とⅣの用法は根本的には同じ原理であると考えられることから、指示詞「こう」は本質的には三つの用法に分かれるのではないだろうか。

## 2. 2. 小出(2011)

次に、「こう」に関する先行研究を概観する。指示詞やフィルターに関する先行研究は数多く報告されているが、「こう」を研究対象の中心としたものは、管見の限りでは小出(2011)のみである。

小出(2011)では、日本語学習者の発話に見られるフィルター「こう」の性質と、超級になるとフィルター「こう」の使用回数が増える理由について、フィルター「こう」とフィルター「この」を比較しながら考察している。しかし、小出(2011)はフィルターのみを研究対象としており、指示詞は研究対象としていない。

「こう」にはフィルターだけでなく指示詞もあることから、指示詞「こう」も研究対象にしなければ、フィルター「こう」について明らかにすることはできないのではないだろうか。

### 3. 指示詞「こう」の性質に関する仮説

本稿では、指示詞「こう」の分類を明らかにするために、表1のような仮説を立てた。

表1. 「こう」の分類とその性質

分類	指示詞			フィラー
	言語指示	動作指示	状況指示	
指示対象	あり			なし
	言語	動作	状況や状態	
係り先	あり			なし

指示対象について、言語指示の指示対象は「言語」、動作指示の指示対象は「動作」、状況指示の指示対象は「状況や状態」とした。しかし、フィラーは指示対象が明確でないことから、「なし」とした。

また、係り先については、指示詞は「あり」としたが、フィラーは係り先が明確でないことから、「なし」とした。

そして、それぞれの分類の用例は以下のとおりである。

まず、(8)は言語指示としての「こう」の用例である。

(8) やがて、その表情がやわらいだかと思うと、こう言った。「これからは、やるかやられるかなのよ」彼女はバッグを拾いあげると、 (BCCWJ)

(8)の指示対象は「これからは、やるかやられるかなのよ」という言語であり、動詞「言う」に係っていることから、言語指示に分類した。

次に、(9)は動作指示としての「こう」の用例である。

(9) 「このはちまきのねじり方が分からないんだけど、どうねじればいいの。」  
こうねじればいいんだよ。」 (作例)

(9)の指示対象は、発話者がはちまきをねじっている動作であり、動詞「ねじる」に係っていることから、動作指示に分類した。

次の(10)は、状況指示としての「こう」の用例である。

(10) 音調指令の大きさを、強調普通抑圧の三段階に量子化しました。えー、各値はこうなっております<sup>9)</sup> (CSJ)

9) CSJは話し言葉を文字化したコーパスであるが、そこには発話以外の情報も記されている。

(10)の指示対象は、音調指令の大きさを量子化した際の各値の状態であり、動詞「なる」に係っていることから、状況指示に分類した。

そして、(11)はファイラーとしての「こう」の用例である。

(11) 三十歳ぐらいでやっとこう大人の仲間入りだと思うんですいやもしかしたらもっと上かも  
(=(2))

(11)は、指示対象も係り先も明確でないことから、ファイラーに分類した。

本稿では、表 1 の仮説をもとに、それぞれの指示詞「こう」の用法について考察する。

## 4. 調査対象と方法

本稿では、話し言葉のコーパスである『日本語話し言葉コーパス』(以下CSJ)と、書き言葉のコーパスである『KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」検索デモンストレーション』(以下BCCWJ)から用例を収集した。

CSJとは、学会講演や模擬講演などの話し言葉を文字化したコーパスのことである。CSJから用例を収集した理由は、書き言葉よりも話し言葉の方が、動作指示としての「こう」が多く出現すると考えられたためである。

CSJには、学会講演、模擬講演、その他という独話タイプ、学会講演インタビュー、模擬講演インタビュー、課題指向対話、自由対話という対話タイプ、そして、再朗読、朗読という朗読タイプの計 3 タイプ 9 音声ファイルが収録されている。本稿では、言語指示、状況指示だけでなく、動作指示も多く出現と思われる学会講演のファイルを使用した。しかし、学会講演のファイルのみだと、発話内容、文体、フォーマルさなどに偏りが生じる可能性があるため、模擬講演のファイルも使用した。なお、指示詞「こう」の品詞は副詞であることから、用例を収集する際には、副詞「こう」の用例に限定した。検索の結果、CSJからは2704例収集した。<sup>10)</sup>

一方、BCCWJとは、書籍や白書などの書き言葉を収集したコーパスのことである。BCCWJを使用した理由は、話し言葉よりも書き言葉の方が、指示詞「こう」の指示対象と係り先が明確に現れると考えられたためである。なお、BCCWJには、書籍、白書、国

(例) 音調指令の大きさを<ベル>強調普通抑圧の三段階に量子化しました (F えー) 各値はこうなっ  
ております (10)を改変)

しかし、本稿では<ベル>や(F えー)のような発話以外の情報は考察の対象ではないため、適宜、句読点に置き換えたり省略を行なった。

10) 検索した際は2705例であったが、そのうちの1例は指示詞「こう」でもファイラー「こう」でもない用例であったため、予め調査対象から除外した。

(例) ま、感動詞でそこまく行って、国会では、の、では、が接続詞に (CSJ)

会会議録、教科書、Yahoo!知恵袋、Yahoo!ブログという6種類のジャンルがあるが、本稿では、内容、文体、フォーマルなどに最も偏りが無いと思われる書籍のみから用例を収集した。また、6種類のジャンルにはそれぞれ下位分類があり、書籍には11種類の下位分類<sup>11)</sup>があるが、内容や文体などの偏りを避けるため、本稿では書籍全体から用例を収集した。検索の結果、BCCWJからは用例を321例収集した。<sup>12)</sup>

次に、調査対象外の「こう」について述べる。調査対象外の「こう」は以下のとおりである。

- ①連体詞の「こういう」「こういった」「こうした」や、副詞としての用法の「こうやって」「こうして」の「こう」
- ②接続詞としての用法の「こうして」の「こう」
- ③慣用句の一部となっている「そうこう」「どうこう」の「こう」

それぞれの調査対象外の「こう」の用例は、以下のとおりである。

- (12) この問題は、前項にもあるように、飼い主がその犬の個性を理解しようとせず、“犬とはこういうモノ”というステレオタイプのイメージに縛られたまま、(BCCWJ)
- (13) 最後にこうして得られた格フレームをまとめて格フレーム辞書を作ります (CSJ)
- (14) きちんと取れたのは、何と出発の一週間前のことでした。え、こうして、何とかその当日に辿り着いた訳ですが (CSJ)
- (15) ですから、この観点から語彙をどうこうということは、殆ど不可能であろうという風に思います (CSJ)

まず、(12)(13)は調査対象外①の用例である。(12)の「こう」は「こういう」という連体詞の一部であることから、本稿では調査対象外とした。(13)の「こう」は、「こう」が「して」に係っているのではなく、「こうして」が動詞「得る」に係っていることから、本稿では調査対象外とした。

次に、(14)は調査対象外②の用例である。(14)の「こう」は「こうして」で接続詞としての用法であることから、本稿では調査対象外とした。

そして、(15)は調査対象外③の用例である。(15)の「こう」は「どうこう」という慣用句の一部となっていることから、本稿では調査対象外とした。

11) 書籍の下位分類は、総記、哲学、歴史、社会科学、歴史科学、技術・工学、産業、芸術・美術、言語、文学、分類なし、の11種類である。

12) BCCWJでは検索件数が500件以上の場合は、500件までしか表示されないようになっている。また、500例のうち179例は指示詞「こう」やフィルター「こう」ではない用例であったため、予め調査対象から除外した。

(例) レンネンキャンプが受けた負方向の感銘はいっこうに薄くならなかった。(BCCWJ)

以上の結果、CSJには2704例のうち調査対象外の「こう」の用例が879例含まれており、BCCWJには321例のうち調査対象外の「こう」の用例が216例含まれていた。

また、CSJは話し言葉のコーパスであるため、文脈からは指示詞「こう」であると思われる。また、ファイラー「こう」であるという可能性も否めない。そこで、指示詞「こう」の用例のみを取り出すために、1825例すべての用例の音声を聞き、以下の方法で指示詞とファイラーの分類を行なった。

- ① 「こう」のアクセントの高さが1拍目と2拍目で異なる場合は指示詞である。
- ② 「こう」のアクセントの高さが1拍目と2拍目で同じ場合はファイラーである。

日本語の形態素アクセントには、1拍目と2拍目の高さが異なるというルールがある。しかし、そのルールに当てはまらない場合もある。用例は以下のとおりである。

(16) 非常にこう丹念でこう緻密なこう取材がもうとてもこう映像に (CSJ)

(16)は「こう」が連続していることから、ファイラーとしての「こう」であると思われる。さらに、(16)は発話の際に「こう」に高低アクセントをつけると不自然になってしまう。したがって、本稿では「こう」のアクセントの高さが1拍目と2拍目で同じ場合はファイラーであるとした。

そして、「こう」の集計結果は表2のとおりである。

表2. 「こう」の性質による集計結果

	言語指示	動作指示	状況指示	分類不明 <sup>13)</sup>	ファイラー	合計
CSJ	54	8	34	2	1722	1820 <sup>14)</sup>
BCCWJ	75	0	28	1	1	105
合計	129	8	62	3	1723	1925

集計の結果、指示詞「こう」の出現数は、CSJ, BCCWJともに、多い方から順に言語指示、状況指示、動作指示であった。

CSJは、言語指示54例、動作指示8例、状況指示34例、分類不明2例、そして、ファイラーが1722例であった。学会講演では手を動かしながら発話している可能性があることから、動作指示としての「こう」が多く出現すると思われたが、音声と文字だけでは

13) 分類不明とは、動作指示としての「こう」であるか否かを明確にすることができなかった「こう」のことである。  
(例) 実は真ん中なんです。あー、だえはえん、えー、こうか。 (CSJ)

14) 1825例のうち、音声が消されていたために聞くことができなかった用例が5例あったため、それらについては予め合計数から除外した。



動作指示であるかどうかを判断することができなかったため、あまり用例を収集することができなかった。

一方BCCWJは、言語指示75例、動作指示0例、状況指示28例、分類不明1例、そして、フィラーが1例であった。BCCWJは書き言葉のコーパスであるが、書き言葉の場合は手を動かすという動作を指示することができないため、動作指示がなかったのだと思われる。また、書き言葉の中には小説の会話文などのような話し言葉が紛れ込んでしまいうこともあるため、フィラーが1例含まれていたのだと思われる。

## 5. それぞれの指示詞「こう」の用法

### 5. 1. 言語指示としての「こう」

第一に、言語指示としての「こう」を考察する。

言語指示の分類のルールは、以下のとおりである。

言語を指示している。

言語指示としての「こう」の用例は以下のとおりである。

- (17) やがて、その表情がやわらいだかと思うと、こう言った。「これからは、やるかやられるかなのよ」彼女はバッグを拾いあげると、(=(8))
- (18) 少しだけましになった。「なぜ、そこまでこだわる」冷徹非情な青年をしてこう訊かせたのは、苛立ちよりも諦めのためであった。(BCCWJ)
- (19) それをいくら男が主張したところで女はこう言った「そりゃそうだけど…」そして心の中でつぶやくのだ。(BCCWJ)

(17)の指示対象は「これからは、やるかやられるかなのよ」という言語であり、係り先は動詞「言う」である。(18)の指示対象は「なぜ、そこまでこだわる」という言語であり、係り先は動詞「訊かせる」である。(19)の指示対象は「そりゃそうだけど…」という言語であり、係り先は動詞「言う」である。

次に、(20)(21)(22)は指示対象に引用の「と」「って」が含まれている用例である。

- (20) これしか出てないようですられる敬語があるかどうかそれから、えー、受益表現とこう名付けましたけども(CSJ)
- (21) 立てなくていいんだとこういうことらしいです。ま、これにはこれから期待しなきゃいけないだろうとこう思っています(CSJ)
- (22) それでその時私はこう思ったわ。ひょっとして、こういう経験したのは私が初めてじゃないん

「じゃないかって」

(BCCWJ)

(20)の指示対象は「受益表現と」という言語であり、係り先は動詞「名付ける」である。(21)の指示対象は「ま、これにはこれから期待しなきゃいけないだろう」という言語であり、係り先は動詞「思う」である。(22)の指示対象は「ひょっとして、こういう経験したのは私が初めてじゃないんじゃないかって」という言語であり、係り先は動詞「思う」である。

用例を見ていった結果、言語指示としての「こう」の場合は、指示対象に引用の「と」「って」が含まれている場合とそうでない場合があることが明らかとなった。そこで次に、指示対象に引用の「と」「って」が含まれているか否かについて、「こう」の有無という観点から考察する。用例は以下のとおりである。

(23) 「わかったら、刀をしまって立て。野次馬がこちらを見ているのがわからぬか」(こう/×φ) 言った楓は、ついて来いというように豊太のほうに顎をしゃくると、 (BCCWJ)

(24) 色々催促したらですね、ま、二十個は間違いないですねと(こう/○φ) 言うんですよ (CSJ)

(23)の場合は「こう」を省略すると許容されにくくなるが、(24)の場合は「こう」を省略しても許容されると思われる。(23)は指示対象に引用の「と」「って」が含まれていないため、許容されにくく考えられる。一方、(24)は指示対象に引用の「と」が含まれているため、許容されると考えられる。

加藤(2010)によると、引用の「と」「って」と動詞の間に挿入されている「こう」「こういう風に」などは、省略しても問題がないとしている。<sup>15)</sup>加藤(2010)では、このような「こう」「こういう風に」を「指示語挿入休止系」<sup>16)</sup>と呼んでおり、一度「と」「って」の部分でポーズを置き、指示詞で先行部分を受け取る形をしているものを、話し言葉の特徴の一つであるとしている。<sup>17)</sup>このことから、(24)にも指示対象に引用の「と」が含まれており、また、話し言葉であることから、指示語挿入休止系の「こう」であると思われる。そのため、「こう」を省略しても許容されるのではないだろうか。

それでは、以下の場合はどうだろうか。

(25) あなたは百年前どこにいたのか？たいていの人は(こう/○φ) 答えるはずだ。どこにもい

15) 加藤陽子(2010)『日本語研究叢書25 話し言葉における引用表現—引用標識に注目して—』くろしお出版. p.73

16) 加藤(2010)では、「こう」「こういう風に」「そう」などを「指示語」と呼び、一方、本稿では「指示詞」と呼んでいるが、両者の意味は同じである。

17) 加藤陽子(2010)『日本語研究叢書25 話し言葉における引用表現—引用標識に注目して—』くろしお出版. p.73

なかった、と。

(BCCWJ)

(25)も、「こう」を省略しても許容されると思われる。しかし、(25)はBCCWJから収集した用例であり、また、「こう」の位置も引用の「と」と動詞の間ではない。したがって、話し言葉に限らず書き言葉の場合であっても、また、「こう」の位置が引用の「と」「って」と動詞の間でなくても、指示対象に引用の「と」「って」が含まれていれば、「こう」の省略が可能になるのではないかと思われる。このことから、省略可能な言語指示としての「こう」であるかを判断する際には、指示対象に引用の「と」「って」が含まれているか否かという点が、最も重要ではないだろうか。

そして、(26)(27)は、指示対象がコンテキスト外にある用例である。

(26) いつも遊んでくれる友だちが、算数が分からないで困っていたときに「こう考えてこうすればいいんだよ」と教えました。(BCCWJ)

(27) この変化していくさまが非常に、その、懐かしく思う昔はあの辺はこうだったなんていうこと非常に歩いたんびに思い出してるような感じです (CSJ)

(26)の指示対象は、算数の問題の解き方を説明しているときの言語であり、係り先は、一つ目の「こう」は動詞「考える」、二つ目の「こう」は動詞「する」である。(26)は指示対象がないように思われるが、算数の問題の解き方は複数想定でき、「こう」がそれらを受けていると考えられることから、(26)にも指示対象がある可能性が高い。そのため、(26)は言語指示としての「こう」であると考えられる。(27)の指示対象は、昔の様子を思い出しながら話しているときの言語であり、係り先は、コピュラ「だ」である。(27)も指示対象がないように思われるが、昔の様子の内容は複数想定でき、「こう」がそれらを受けていると考えられることから、(27)も言語指示としての「こう」であると考えられる。

## 5. 2. 動作指示としての「こう」

第二に、動作指示としての「こう」を考察する。

動作指示の分類のルールは、以下のとおりである。

- ①手で何かを指し示す、あるいは手を動かしながら話さないと違和感がある。
- ②目の前にあるものの動きを指示している。

はじめに、分類のルール①に当てはまる用例は以下のとおりである。

(28) 「このはちまきのねじり方が分からないんだけど、どうねじればいいの。」  
「こうねじればいいんだよ。」 (= (9))

(29) ボールをこう投げると、遠くに飛びますよ。(作例)

(30) 音がこう来ましてこっからこう行くと考えられますがその時に、え、左の耳に注目しますとこう  
来ます (CSJ)

(28)の指示対象は、発話者がはちまきをねじっているときの動作であり、係り先は動詞「ねじる」である。(29)の指示対象は、発話者がボールを投げているときの動作であり、係り先は動詞「投げる」である。(30)の指示対象は、発話者が音の流れを説明しているときの手の動きであり、係り先は、一つ目と三つ目の「こう」は動詞「来る」、二つ目の「こう」は動詞「行く」である。(30)は学会講演の発話であることから、発話者は手を動かしながら発表していると思われる。そのため、(30)は動作指示であると考えられる。

次に、分類のルール②に当てはまる用例は以下のとおりである。

(31) ポチが尻尾をこう振っているときは、遊んでほしいということ表現しているんです。 (作例)

(32) コロがこう動いているときは、エサが欲しいということ表現しているんです。 (作例)

(31)の指示対象は、発話者の目の前でポチが尻尾を振っている動作であり、係り先は動詞「振る」である。(32)の指示対象は、発話者の目の前でコロが動いている動作であり、係り先は動詞「動く」である。

次に、(33)(34)(35)は、「こう」と動詞の間に動作を詳しく説明する言語が含まれている用例である。

(33) ムラが出ないように、毛先をこう細かく動かします。 (作例)

(34) 私は、眠くなってくるとこう頬をつねります。 (作例)

(35) ラケットは、こうフェイスと手のひらが平行になるような位置で握るとよい。 ((4)を改変)

(33)の指示対象は、発話者が毛先の動かし方を説明しているときの動作であり、係り先は「細かく動かします」である。(34)の指示対象は、発話者が眠くなってくるときに行なう動作であり、係り先は「頬をつねります」である。(35)の指示対象は、発話者がラケットの握り方を説明しているときの動作であり、係り先は「フェイスと手のひらが平行になるような位置で握る」である。

金水・木村・田窪(1989)では、「こう」と動詞の間に他の言語が入っている場合は、指示詞「こう」を使うことができないとしている<sup>18)</sup>が、手を動かしながら発話している場合であれば、「こう」と動詞の間に他の言語が入っていても、指示詞「こう」の使用は可能であると思われる。そのため、本稿では動作指示としての「こう」に分類した。

18) 金水敏・木村英樹・田窪行則(1989)『日本語文法 セルフマスターシリーズ 4 指示詞』くろしお出版. p.57

用例を見ていった結果、動作指示としての「こう」には、「こう」と動詞の間に動作を詳しく説明する言語が含まれている場合とそうでない場合があることが明らかとなった。そこで次に、「こう」と動詞の間に動作を詳しく説明する言語が含まれているか否かについて、「こう」の有無という観点から考察する。用例は以下のとおりである。

(36) 腕を(こう/×φ)振れば、もっと速く走れるようになるよ。 (作例)

(37) ムラが出ないように、毛先を(こう/○φ)細かく動かします。 ((33)を改変)

(36)の場合は「こう」を省略すると許容されにくくなるが、(37)の場合は「こう」を省略しても許容されると思われる。

動作指示としての「こう」は、発話の際の手の動きや目の前にあるものの動作を表すため、(36)のように「こう」と動詞の間に動作を詳しく説明する言語が含まれていないと、許容されにくくなると考えられる。一方、(37)は「こう」と動詞の間に動作を詳しく説明する言語が含まれているため、「こう」を省略しても許容されると考えられる。

### 5. 3. 状況指示としての「こう」

第三に、状況指示としての「こう」を考察する。

状況指示の分類のルールは、以下のとおりである。

状況や状態全体を指示している。

状況指示としての「こう」の用例は以下のとおりである。

(38) 「このご飯少しかたいですね」  
「ええ、炊くときに水が少ないとこうなるんです」 (= (5))

(39) 音調指令の大きさを、強調普通抑圧の三段階に量子化しました。えー、各値はこうなって  
おります (= (10))

(40) ぼくは—みなも—お竜さんが発狂したのではないかと疑った。「ええい、こうなっちゃもうか  
たかねえ。おらあすつぱり尻尾を出すぜ」お竜さんは言い— (BCCWJ)

(38)の指示対象はご飯の状態であり、係り先は動詞「なる」である。(39)の指示対象は、音調指令の大きさを量子化した際の各値の状態であり、係り先は動詞「なる」である。(40)の指示対象は、お竜さんがみんなから疑われている状況であり、係り先は動詞「なる」である。

次の(41)(42)は、条件節「と」の中に「こう」が含まれている用例である。

(41) こう暑いと、勉強がはかどりませんね。 (= (7))

(42) 万事ぬかりはないはずだが、こう連絡が途絶えると、何か重大なことが起こり、混乱しているのではないかとおもえてくる。(BCCWJ)

(41)の指示対象は暑いという状況であり、係り先は形容詞「暑い」である。(42)の指示対象は、連絡が途絶えているという状況であり、係り先は「連絡が途絶える」である。

(41)(42)は、いずれも条件節「と」の中に指示詞「こう」が含まれている。(41)の主節は「勉強がはかどりませんね」、(42)の主節は「何か重大なことが起こり、混乱しているのではないかとおもえてくる」であることから、条件節「と」の中に指示詞「こう」が含まれている場合は、主節には悪い方向へと程度が高くなっている状況を表す文がくると言えるのではないだろうか。

それでは、以下の場合はどうだろうか。

(43) こう暑いと、ビールが飲みたくなりますね。(作例)

(44) [マンガ本を読んでいて]  
こう面白いと、早く続きが読みたくなります。(作例)

(43)の指示対象は暑いという状況であり、係り先は形容詞「暑い」である。(44)の指示対象はマンガ本を読んでいるという状況であり、係り先は形容詞「面白い」である。

(43)(44)の「こう」も、(41)(42)の「こう」と同様に条件節「と」の中に指示詞「こう」が含まれている。しかし、(43)の主節は「ビールが飲みたくなりますね」、(44)の主節は「早く続きが読みたくなります」であるように、悪い方向へと程度が高くなっているのではなく、願望を表していると思われる。一見すると、(41)(42)と(43)(44)には共通点がないようだが、どちらも自分が理想としている状況ではないという点が共通していると思われる。このことから、条件節「と」の中に指示詞「こう」が含まれている場合は、主節にはあまり望ましくない状況を表す文がくると考えるのが妥当ではないだろうか。

また、金水・木村・田窪(1989)では、(38)(39)と(40)(41)(42)(43)(44)は別の用法であるとしている<sup>19)</sup>が、(38)から(44)は状況や状態を指示していることから、根本的な原理は同じであると思われる。そのため、(38)から(44)は同じ用法であると考えられる。

次の(45)(46)は、状況が詳しく言語化されている用例である。用例は以下のとおりである。

(45) 本人は腕のないことを気にして真面目に作っているのに、どうしてこう、煮損なった上に焦がしてしまった煮豆のような風味になるのだろう。(BCCWJ)

(46) 気づかれる心配はなかった。「ちくしょう、なんだって、こうなにもかもぐずぐずしてんだらう！」ホブソンが泣きごとを言った。(BCCWJ)

19) 金水敏・木村英樹・田窪行則(1989)『日本語文法 セルフマスターシリーズ 4 指示詞』くろしお出版。p.59、p.68

(45)の指示対象は、煮損なった上に焦がしてしまった煮豆のような風味になるという状況であり、係り先は「煮損なった上に焦がしてしまった煮豆のような風味になる」である。(46)の指示対象は、なにもかもぐずぐずしているという状況であり、係り先は「なにもかもぐずぐずして」である。

用例を見ていった結果、状況指示としての「こう」の用例には、指示詞「こう」が指し示している状況が詳しく言語化されている場合とそうでない場合があることが明らかとなった。そこで次に、指示詞「こう」が指し示している状況が詳しく言語化されているか否かについて、「こう」の有無という観点から考察する。用例は以下のとおりである。

(47) ぼくは一みなも—お竜さんが発狂したのではないかと疑った。「ええい、(こう/×φ)なっちやもうかたがねえ。おらあすっぱり尻尾を出すぜ」お竜さんは言い— ((40)を改変)

(48) 本人は腕のないことを気にして真面目に作っているのに、どうして(こう/○φ)、煮損なった上に焦がしてしまった煮豆のような風味になるのだろう。 ((45)を改変)

(47)の場合は「こう」を省略すると許容されにくくなるが、(48)の場合は「こう」を省略しても許容されると思われる。

状況指示としての「こう」は状況や状態を表すため、(47)のように指示詞「こう」が指し示している状況が詳しく言語化されていないと、許容されにくくなると考えられる。一方、(48)は指示詞「こう」が指し示している状況が詳しく言語化されているため、「こう」を省略しても許容されると考えられる。

## 6. まとめ

はじめに、本稿では以下の2点を主張した。

- ①指示詞「こう」が、「言語指示」「動作指示」「状況指示」の三つに分類できる。
- ②省略可能な指示詞「こう」が、指示詞「こう」とファイラー「こう」をつないでいる。

まず、主張①を明らかにするために、本稿では指示詞「こう」の性質に関する仮説を立て、それぞれの指示詞「こう」の用法を考察した。

最初に、言語指示としての「こう」の用例は以下のとおりである。

(49) 少だけましになった。「なぜ、そこまでこだわる」冷徹非情な青年をしてこう訊かせたのは、苛立ちよりも諦めのためであった。 (=18))

(49)の指示対象は「なぜ、そこまでこだわる」という言語であり、動詞「訊かせる」に

係っていることから、言語指示としての「こう」に分類した。

次に、動作指示としての「こう」の用例は以下のとおりである。

(50) ボールをこう投げると、遠くに飛びますよ。 (= (29))

(50)の指示対象は、発話者がボールを投げるとき動作であり、動詞「投げる」に係っていることから、動作指示としての「こう」に分類した。

そして、状況指示としての「こう」の用例は以下のとおりである。

(51) ぼくは一みなも—お竜さんが発狂したのではないかと疑った。「ええい、こうなっちゃもうかたがねえ。おらあすつぱり尻尾を出すぜ」お竜さんは言い— (= (40))

(51)の指示対象は、お竜さんがみんなから疑われているときの状況であり、動詞「なる」に係っていることから、状況指示としての「こう」に分類した。

そして、指示詞「こう」とフィラー「こう」は、表 3 のようにつながっているのではないだろうか。

表 3 . 指示詞とフィラーのつながり

指示詞		フィラー
①言語指示 (省略不可)	④言語指示 (省略可)	⑦フィラー
②動作指示 (省略不可)	⑤動作指示 (省略可)	
③状況指示 (省略不可)	⑥状況指示 (省略可)	

以下、①から⑦の用例を順番に見ていく。①②③の用例は、省略不可能な指示詞「こう」の用例である。

① それをいくら男が主張したところで女はこう×φ言ったっつきり口ごもるだろう。「そりゃそうだけど…」  
そして心の中でつぶやくのだ。 ((19)を改変)

② 腕をこう×φ振れば、もっと速く走れるようになるよ。 (= (36))

③ 「このご飯少しかたいですね」  
「ええ、炊くときに水が少ないとこう×φなるんです」 ((5)を改変)

①は指示対象に引用の「と」が含まれていないため、「こう」を省略すると許容されにくくなると思われる。次に、②は指示詞「こう」と動詞の間に動作を詳しく説明する言語が含まれていないため、「こう」を省略すると許容されにくくなると思われる。そして、③は指示詞「こう」が指し示している状況が詳しく言語化されていないため、「こう」を省略すると許容



されにくくなると思われる。

次に、④⑤⑥の用例は、省略可能な指示詞「こう」の用例である。

- ④ これしか出てないようですられる敬語があるかどうかそれから、えー、受益表現と(こう/○φ)  
名付けましたけども (20)を改変
- ⑤ 私は、眠くなってくると(こう/○φ)頬をつねります。(34)を改変
- ⑥ 気づかれる心配はなかった。「ちくしょう、なんだって、(こう/○φ)なにもかもぐずぐずして  
るんだろう！」ホブソンが泣きごとを言った。(46)を改変

④は指示対象に引用の「と」が含まれているため、「こう」を省略しても許容されると思われる。次に、⑤は指示詞「こう」と動詞の間に動作を詳しく説明する言語が含まれているため、「こう」を省略しても許容されると思われる。そして、⑥は指示詞「こう」が指し示している状況が詳しく言語化されているため、「こう」を省略しても許容されると思われる。

そして、⑦はフィルター「こう」の用例である。

- ⑦ 非常に(こう/○φ)丹念で(こう/○φ)緻密な(こう/○φ)取材がもうとても(こう/○φ)映像に  
(16)を改変

⑦は「こう」が連続しているため係り先を特定することが難しく、更に、「こう」に高低アクセントをつけると不自然になることから、フィルターであると思われる。

省略可能な指示詞「こう」とフィルター「こう」は、「こう」の省略が可能である点が共通している。このことから、主張②「省略可能な指示詞「こう」が、指示詞「こう」とフィルター「こう」をつないでいる。」と言えよう。

今後の課題は、より多くの用例を収集して、それぞれの指示詞「こう」の用法を明確にすることである。なお、本稿では動作指示としての「こう」の用例がほぼ作例であったため、今後は実例からも用例を収集したい。

また、本稿では指示詞「こう」のみを研究対象としたが、今後は本稿をもとにフィルター「こう」の機能について考察し、指示詞との連続性の実態を明らかにしていきたい。

## 【参考文献】

- 加藤陽子(2010)『日本語研究叢書25話し言葉における引用表現—引用標識に注目して—』くろしお出版. pp.72-74
- 金水敏・木村英樹・田窪行則(1989)『日本語文法 セルフマスターシリーズ 4 指示詞』くろしお出版. pp.56-70
- 小出慶一(2011)「日本語学習者の発話に見られるフィラー「こう」について」『埼玉大学紀要(教養学部)』第46巻第2号、埼玉大学教養学部. pp.99-112
- 益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版. p.112
- 山内博之(2009)『プロフィエンスーから見た日本語教育文法』ひつじ書房. pp.2-63
- 山根智恵(2002)『日本語研究叢書15日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版. pp.49-51

## 【コーパス】

- 独立行政法人国立国語研究所・独立行政法人情報通信研究機構(2004)『日本語話し言葉コーパス』第1刷
- 独立行政法人国立国語研究所『KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」検索デモンストレーション』<<http://www.ninjal.ac.jp/kotonoha>>(検索日:2011年4月8日)

## 【謝辞】

本稿は、韓国日本文化学会2013年度第45回秋季国際学術大会における口頭発表『指示詞「こう」の分類について』の内容に基づいて、執筆したものである。口頭発表の際には、多くの先生方から貴重なご意見をいただいた。また、本誌の匿名査読者の方からも、貴重なご助言をいただいた。記して感謝申し上げたい。

## 要 旨

本稿は、指示詞「こう」の分類について述べたものである。山内(2009)では、フィラー「こう」は超級話者になると使用回数が急増するということを明らかにしている。このように、フィラー「こう」は日本語学習者のレベルを知るための重要な手掛かりであり、また、フィラー「こう」の機能を明らかにすることは、日本語教育において重要な課題となる。しかし、「こう」にはフィラーだけでなく指示詞もあることから、両者をともに研究対象とする必要がある。

そこで、本稿では指示詞「こう」とフィラー「こう」の関係を明らかにするための準備段階として、指示詞「こう」のみを研究対象とし、それぞれの指示詞「こう」の用法について考察した。

考察の結果、指示詞「こう」は、言語を指示対象とする「言語指示」、発話の際の手の動きや目の前にあるものの動作を指示対象とする「動作指示」、そして、本稿で新たに立てた分類であり、状況や状態を指示対象とする「状況指示」の三つに分類できるということが明らかとなった。

また、指示詞「こう」には省略が可能なものと不可能なものがあり、省略可能な指示詞「こう」とフィラー「こう」は、「こう」の省略が可能であるという点が共通していることから、省略可能な指示詞「こう」によって、指示詞「こう」とフィラー「こう」がつながっているということが明らかとなった。

キーワード： フィラー「こう」、指示詞「こう」、指示対象、言語指示、  
動作指示、状況指示、省略可能な指示詞「こう」

투 고 : 2014. 2. 28  
1차 심사 : 2014. 3. 15  
2차 심사 : 2014. 4. 5